

市町村	今回の浸水想定	大震災の浸水域
階上町	1.9	0.5
八戸市	38.9	9.0
おいらせ町	13.3	3.0
三沢市	37.8	6.0
六ヶ所村	22.6	5.0
東通村	15.0	-
合計	129.5	23.5

東日本大震災と今回の津波想定との浸水面積(km²)

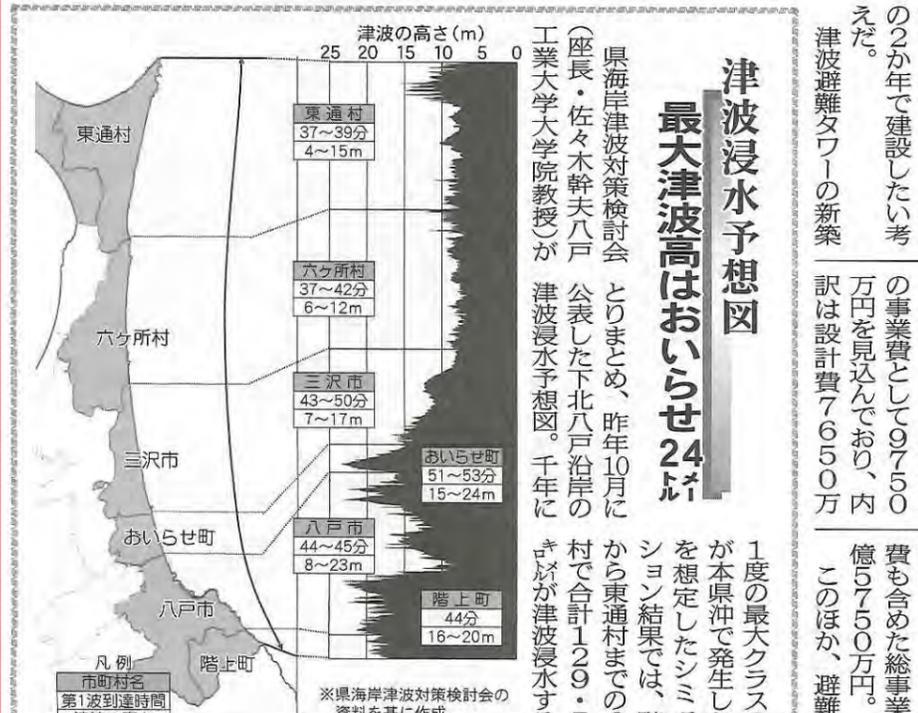
県内最大の24分の津波高が示されたおいらせ町。浸水域も東日本大震災の4倍以上となる13.3平方キロで、旧百石町地区から旧下田町地区まで広範囲におよぶ。

町では、開発計画研究所に委託している復興地づくりに計画調査業務の中で津波対策を進めている。同業務内では、津波避難計画の年度内策定に向け、浸水域内となる旧岸部の各地区をグループに分けワークショップを開催。住民の意見を十分に吸い上げた上で、2月末までに計画案を取り

おいらせ町 県内最大津波への対応急務 避難タワー設計は来年度

まとめの方針だ。これまでに開催したワークショップでは、地域の町内会役員や住民などとともに、3・11の反省点から必要なものは何かを探ってきた。県の津波浸水シミュレーションでは、町が指定している津波避難所5か所のうち3か所が浸水域内となるなど、新たな避難所の確保、避難路の設定などが急務。11月に行われた津波浸水シミュレーション公表後初のワークショップでは、新たに百石道路への避難階段設置の要望などが住民側から

の意見は吸い上げられてきた。また、津波避難所として避けられない渋滞対策では、今年からは町内会ごとに決められた路線を使うことで一路線に車が渋滞しないよう配慮した。このほか、見込まれるハード対策として、浸水域外に避難所を新設することも検討課題に挙げられている。また、建設技術研究所に委託した津波避難計画内、避難タワーなどの新たな避難施設について基本構想、建設予定地の選定を行うことになってきたが、現時点では白紙の状態となっている。また、避難計画と同時に津波ハザードマップ策定業務に着手しており、国際航空に委託し、作業の進捗を図っている。



津波浸水予想図 最大津波高はおいらせ24分

県海岸津波対策検討会(座長・佐々木幹夫八戸工業大学大学院教授)がとりまとめ、昨年10月に公表した下北八戸沿岸の津波浸水予想図。千年に一度の最大クラスの地震が本県沖で発生した場合を想定したシミュレーション結果では、階上町市には約20分の津波が海岸線に押し寄せる。また、津波の第1波は、地震発生から最短で37分で六ヶ所村や東通村に到達するとしている。

6市町村の津波浸水面積は、八戸市の38.9平方キロを最大に、三沢市37.8平方キロ、六ヶ所村22.6平方キロ、おいらせ町13.3平方キロ、東通村15.0平方キロ、階上町1.9平方キロで、合計129.5平方キロに達する。これは、東日本大震災の5.5倍にもおよぶ。

同検討会では今後、日本海と陸奥湾の2沿岸を対象に同様の浸水予想図を取りまとめる予定。

出ている。このほか、ハード対策としては、同町川口地区に津波避難タワーを新設する方針を固め、すでに復興交付金事業として計画が認められている。現在同業務の中で基本設計に着手しており、基本設計完了後の来年度に実施設計を委託し、14・15年度の2か年で建設したいと考えている。

復興庁に提出した事業計画では、13年度に予定している設計、用地買収の事業費として9750万円を見込んでおり、内訳は設計費7650万円、用地買収費2100万円となっている。建設費も含めた総事業費は6億5750万円。

このほか、避難計画に基づき避難路の整備などのハードメニューも計画が固まり次第、順次復興交付金を活用しながら取り組みたい考え。



県太平洋沖地震 津波到達時間と海岸での高さ

1度の最大クラスの地震が本県沖で発生した場合を想定したシミュレーション結果では、階上町市には約20分の津波が海岸線に押し寄せる。また、津波の第1波は、地震発生から最短で37分で六ヶ所村や東通村に到達するとしている。

6市町村の津波浸水面積は、八戸市の38.9平方キロを最大に、三沢市37.8平方キロ、六ヶ所村22.6平方キロ、おいらせ町13.3平方キロ、東通村15.0平方キロ、階上町1.9平方キロで、合計129.5平方キロに達する。これは、東日本大震災の5.5倍にもおよぶ。

同検討会では今後、日本海と陸奥湾の2沿岸を対象に同様の浸水予想図を取りまとめる予定。

皆様のご多幸をお祈り申し上げます

平成25年 元旦

《地球温暖化対策と循環型社会形成を推進する企業》

地球に優しい工事と廃棄物の再資源化を目指します

商標登録済 当社キャラクター 『セレス君』

ISO 9001:2008
ISO 14001:2004
認証登録企業

【CO₂削減対策】

- 第2次基準適合排出ガス対策型解体専用建設機械 8台増機
- 平成17年基準低排出ガス重量車適合の新型車両 11台導入

【再資源化対策】

- コンクリート破碎施設
- 無機性汚泥の造粒固化施設
- 木屑の再資源化施設

【その他環境対策】

- アスベスト撤去作業用クリーンボックス導入
- ダイオキシン対策焼却炉
- 管理型最終処分場施設

心をひとつにがんばる東北!

産業廃棄物収集運搬・中間処理・最終処分業・解体工事業一式・土木工事一式

株式会社 庄司興業所

新本社住所 / 〒039-1107 八戸市大字櫛引字井ヶ月1-44
TEL 0178-27-1328 FAX 0178-27-3576
U R L : http://www.syouji.jp
e-mail : honsya-14001@syoudji.jp

本社事務所が移転しました

「検査」
「次幸治」

「測では、
「津波
「16、20日
「浸
「全域が浸

「日本大震

「民と話し
「定した。

「水城の外
「広場16カ
「民が真つ

「報告会後、
「想定した地
「難マップつ
「する自主防
「ら10日、
「ートフルフ

「み

「日本司法
「の早川清
「が出席。

「地域の方
「ルを未然
「がから、暮
「は法律家と
「士を利用し
「いと考え
「つした。

「の所在地
「辺地17の
「75、7
「クスO1
「i。

「浦博史」

「で真つ赤
「78年ころから盗掘な
「花に覆われた美しい

「難が必要な場合、さら」位置を記したハザード「せたい」、内陸部の野」の登録作業を進める。

災害へ備え 議論活発に

「避難第一」意識して

津波想定しフォーラム おいらせ

災害に強いまちづく「事だ」などと意見を述べた。

町は10日、同町みなく「館で震災復興フォーラムを開いた。パネリストの工藤一雄深沢町内会長、山崎齊上新町内会長らが東日本大震災当時の経験を基に「防災・減災の取り組み以上に、まず逃げる意識を高めることが大

「まれている。

「入瀬川沿いを中心に震災時の約4・5倍に拡大。町民約8千人が避難を強いられると見込

「まれている。



避難意識を高めることが大事と訴える参加者=10日、おいらせ町

フォーラムでは、立命館大の山田悟史助教が「避難タワー(仮称)や百石道路に上る階段の新設により、津波到達までに浸水域から町民の大半が脱出できる」との見通しを示した上で、工藤さんが「自主防災組織の役割が一層大きくなる」「限ら

「た時間」で助け合う「反射神経」が必要」などと呼び掛けた。

「環境問題に詳しい恩賜財団済生会の炭谷茂理事長は「危機管理と避難第一の意識を日常生活や職場で高めるべ

「き」と助言した。(山口秀一郎)

日常の心構え徹底を

県防災士会など青森でシンポ

県防災士会と日本防災士会北東北支部連絡協議会は10日、青森市のアピオあおもりで「防災シンポジウム」を開いた。専門家たちが東日本大震災の教訓を交え、「災害は忘れ

「た」にやってくる。『ではなく、明日大地震がくるという心構えで備えてほしい』などと呼び掛けた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

「シンポジウムには、市民ら約150人が参加。日本赤十字社東北支部事業推進課長の吉川靖之さんが講師を務めた。

救助犬

青森

災害救助犬育協議会(青森市)動物愛護センター、日、青森市の同じで、被災者の救

「活動で活躍



「京都メソッド」

津波避難計画案の報告、討論会も

災害に強い町づくり探る

おいらせで震災復興フォーラム

おいらせ町は10日、同町みなくろ館で震災復興フォーラムを開催した。東日本大震災から2年。参加した町民80人が津波避難計画案の報告や講演を通して、災害に強い町づくりの在り方を探った。

(藤村大地)



津波避難について意見を出し合ったパネルディスカッション

冒頭、成田隆町長が「より良い復興に向け、いろいろな意見を聞かせてもらいたい」とあいさつ。

フォーラムでは、地域住民が主体となって町の復興計画を考える「町復興地域づくり検討会」の津波避難計画案について、同会メンバーが報告した。同案では最大規模の津波を想定し、高所にある高速道路などに避難階段を設置。高台がない川口地区には津波避難タワーの建造などを提言している。

パネルディスカッションには、検討会メンバーである深沢町内会の工藤一雄会長や上新町町内会の山崎齊会長らが参加した。「自分の命を守るために逃げることを意識してほしい」「災害発生時には自分でしっかり考えて柔軟に対応する必要がある」など、避難する際の課題を挙げた。

また、環境省環境事

務次官などを歴任し、現在は社会福祉法人恩

賜財団済生会(東京都)の理事長を務める炭谷茂氏が「地域の再生を考える」災害を越えてをテーマに講演した。

会社再建 支えあればこそ

陸前高田の醸造業「八木澤商店」

河野会長、洋野で講演会

震災の記憶を風化させまいと、洋野町は10日、町民文化会館で、震災復興講演会を開催した。講師を務めた陸前高田市の老舗醸造業

「八木澤商店」会長の河野和義さんが、町民ら約700人を前に、壊滅的な被害を受けた同市の様子や会社再建までの険しい道のりを

語った。同社は1807年創業の老舗で、みそ・しょうゆの醸造を行っていた。震災の津波で社屋や工場などが全壊、トラック2台を残すだけとなった。だが、従業員を解雇せず、20日後には新入社員の入社式も行い被災地に大きな勇気を与えた。現在は一関市に工場を構える。河野さんは8代目社長で、2011年4月から会長職に就いた。

スライドで震災前後の陸前高田市の様子を説明する河野和義さん



河野さんは、スライドで陸前高田市や同社の被災前後の様子を見せながら講演。社員と共に救済物資を配達する中で、社員が笑顔を取り戻していく様子を見て再建を決意した当



一斉に冷水を



被災地で活動姿などを紹介

鎮魂、復興 各地で祈り

手つなぎ、商品販売、合唱……

東日本大震災から2年を迎えるのを前に県内各地で10日、様々なイベントが行われた。参加した人たちは被災者や被災地に思いを寄せ、復興への誓いを新たにした。

八戸市の種差海岸では、日の出とともに手をつないで犠牲者の鎮魂や復興を祈る「ヒューマンバンド」の「3・11」が開かれた。市民有志でつくるグループ「HUMANBAND」が、宮城県石巻市からの避難者や、茨城県、東京都など県内外から参加した約300人が手をつなぎ、犠牲



手をつないで犠牲者の鎮魂や復興を祈る参加者たち（八戸市の種差海岸で）

者に黙とうをささげた。友人と参加した青森市の杉浦明里さん(28)は、ドックトレーナーとして福島県で被災者のペットの支援活動に取り組んだという。「被災地の復興が進んでほしいと祈った。県内でも出来る範囲で復興を手伝いたい」と話した。

十和田市現代美術館では昨年続く追悼イベント「Pray for the EARTH」が行われ、被災地の商品販売や復興への思いを込めた小学生の合唱などが行われた。

福島県から同市に避難している県外避難者らが呼びかけた。会場には、同県海江町へのメッセージを書き込むブースが設けられたほか、宮城県で作られたキーホルダーや食品が並び、被災地へ思いを寄せるキャンセル作りも行われた。

売り上げの一部を被災地支援などに充てるカフェを出した同市のNPO法人代表中沢洋子さん(51)は、「言葉だけでなく、行動に移すことで将来世代にも震災の記憶を引き継ぎたい」と話していた。

また、おいらせ町立みなくる館では「町震災復興フ



小学生が復興への思いを込めた歌を披露（十和田市現代美術館で）

オーラム」が開かれ、参加した町民ら約80人が復興や防災対策の理解を深めた。津波避難のあり方をまとめる町の「復興地域づくり計画」について町内会長や町職員、大学助教ら6人が議論。計画は、太平洋沿岸を最大級の津波が襲うことを想定した県の「津波浸水予測図」をもとに避難タワーの設置などを具体的に検

討し、今月中に策定される。策定に向けて町民と話し合いを進める山田悟史・立命館大助教(建築情報技術)は「家族で避難行動を話し合う『家族防災会議』を多くの人が行うことが重要」と、自ら自分の命を守る大切さを訴えた。山崎斉・上新町町内会長も「日頃から自分で考えて避難態勢を整えたい」と話した。

「さよなら原発」青森で1000人超集会

「さよなら原発・核燃『3・11』青森集会」が10日、JR青森駅前の駅前公園を中心に行われた。

青森市の反核団体「なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク」が東京電力福島第一原発事故から2年

同公園で弘前市出身の作家、鎌田慧さんが「原発事故では多くの人が故郷を失い、職も失った。東北に原子力施設が集中するのは中央からの差別だ」と訴える

と、集まった1000人以上の参加者から拍手が起こった。この後、青森市街地を「原発いらない」「核燃いらない」と叫びながらデモ行進した。